

令和6年7月17日

松江市議会議長 吉 金 隆 様

議会運営委員会委員長 立 脇 通 也

行政視察報告書

下記のとおり行政視察を行ったので、その結果を報告します。

記

1. 期 間 令和6年7月9日（火）～7月11日（木）

2. 視 察 地 茨城県日立市、福島県須賀川市

3. 参加委員名	<u>立 脇 通 也</u>	<u>川 島 光 雅</u>
	<u>石 倉 茂 美</u>	<u>田 中 明 子</u>
	<u>森 脇 幸 好</u>	<u>津 森 良 治</u>
	<u>森 脇 勇 人</u>	<u>三 島 良 信</u>
	<u>柳 原 治（副議長）</u>	

4. 随行者氏名 野 々 村 繁

5. 調 査 内 容

- | | |
|---------|------------------------------|
| 茨城県日立市 | ①「議会活性化の取組について（市長への政策提案・提言）」 |
| 福島県須賀川市 | ①「施設見学（須賀川市民交流センター）」 |
| | ②「議長選挙の立候補制について」 |

6. 調査の概要 別紙のとおり

茨城県 日立市

1 調査項目

議会活性化の取組について（市長への政策提案・提言）

2 視察対応者

日立市議会 副議長 白石敦

〃 議会運営委員会 副委員長 堀江紀和

日立市議会事務局 事務局長 大谷裕文

〃 主幹 渡邊一史

3 調査日

令和6年7月10日 午前9時20分～10時40分

4 日立市の概要

人口：17万2千人

面積：225.73 平方キロメートル

茨城県北東部に位置し、西は阿武隈山地、東は太平洋に面している。明治時代の日立鉱山や工場を起源とする日立製作所など、有数の工業都市として発展。新交通システム「ひたちBRT」が運行している。

5 調査目的

議会の政策提案機能の向上については、本市議会の継続的な課題の一つであると考えている。日立市議会では、各常任委員会で盛んに調査活動や委員間の議論が行われ、市長への政策提案・提言につなげていることから、本市議会の取組の参考とするため、日立市議会の状況を調査するもの。

6 調査内容

日立市議会では、市議会基本条例において、議員同士の自由な議論により政策立案及び政策提案を積極的に行うことと規定しており、この規定に基づき、議会内に副議長を座長とし各会派から選出された12名の委員で構成する「まちづくり政策協議会」を組織した。この協議会において、政策立案に向けたテーマや課題を選定し、自由討議形式でその課題を分析、関係団体へのヒアリング調査などを経て政策提言書を取りまとめ市長へ提出した。

今後も各常任委員会単位で本協議会を定期的を開催することとしており、政策提言に向けた十分な調査、研究を進めていくとのことであった。

上記の取組に関する主な質疑・答弁は以下のとおり。

(質疑) まちづくり政策協議会の政策提言とは別に、会派ごとの予算要望等も行っているか。

(答弁) 会派ごとに予算要望もしている。まちづくり政策協議会の提言と当然重複する内容もある。

(質疑) 会派ごとに政策的な考えが異なることから、本協議会で提言書をまとめることに難しさはなかったか。

(答弁) 委員から様々なテーマが提出され、座長はとりまとめに相当の苦勞をしたと聞いているが、準備会などで自由討議を重ねる中で一定のとりまとめをすることができた。

(質疑) 議会からの政策提言は重要な位置づけとなると思うが、市長側が提言のうち何を実現したか、いくら予算化したかといった実績はあるか。

(答弁) 市長から回答はもらうが、提言のうち何項目が実現したかといった定量的な評価はしていない。

(質疑) 政策提言の頻度はどのくらいか。

(答弁) 頻度に決まりはなく、実績としては2年に1回実施している。

(質疑) 議会報告会の実施手法について伺う。

(答弁) 過去には地域の交流館等での開催や関係団体との意見交換会を実施したことがある。最近では地元のFMラジオを活用し、一般質問や市長施政方針等の様子を放送している。

(質疑) こども議会の取組について伺う。

(答弁) 平成30年に開催した。各中学校から生徒を集め、市政に関して質問し市長が答弁を行った。生徒たちは事前の勉強会等を通じて非常に積極的に取り組んでくれたと思う。

(質疑) タブレットの活用について、ペーパーレス化の状況を伺う。

(答弁) 令和3年2月からタブレットを導入している。現在は、本会議、委員会とも

全ての資料をペーパーレス化している。

(質疑) 最近、議員定数を削減しているが、経過について伺う。

(答弁) 近隣の水戸市などの定数と比較し、議会内で妥当な数を議論し削減を決定したものである。



視察状況

福島県 須賀川市

1 調 査 項 目

- ①施設見学（須賀川市民交流センター）
- ②議長選挙の立候補制について

2 視 察 対 応 者

須賀川市議会 副議長 溝井光夫
〃 議会運営委員会 委員長 石堂正章
〃 〃 副委員長 大柿貞夫
須賀川市議会事務局 次長 松谷光晃

3 調 査 日

- ①令和6年7月10日 午後3時40分～4時30分
- ②令和6年7月11日 午前9時55分～11時25分

4 須賀川市の概要

人口：7万5千人

面積：279.43 平方キロメートル

福島県中央部に位置し、東は阿武隈山地、西は奥羽山系の山々が連なり、その間の平坦地に市街地が広がっている。古くは奥州街道の宿場町として栄え、東北自動車道、福島空港が立地している。交通利便性が比較的良いことから工業団地が複数整備されている。農業ではコメ、キュウリ、リンゴ、梨等の産出額が高い。

5 調 査 目 的

須賀川市議会では、議会改革の一環として議長の選出にあたり立候補制を導入し、議会の透明性の確保に努めている。須賀川市議会が本制度を導入した経緯や具体的な運用の流れなどについて調査するもの。

また、平成31年に建設された須賀川市民交流センターの施設見学を行うもの。

6 調 査 内 容

①施設見学（須賀川市民交流センター）

須賀川市民交流センターは、震災により甚大な被害を受けた市街地に賑わいと活気を取り戻すため、復興交付金等の財源を活用して建設され、平成31年1月に開館したものであり、市民活動サポートセンター、子育て支援センター、図書館、学習スペース等を備えた複合施設である。

建物内は大きな吹き抜けが設けられ広々としたスペースがあり、市民が自由に出入りできるようになっている。施設見学の最中にも、キッズスペースを利用する親子連れや学習スペースを利用する学生がおり、市民の憩いの場となっているとのことであった。

②議長選挙の立候補制について

須賀川市議会では、議長選出の経過を市民に分かりやすく示すとともに、議長の適任者を選ぶ一助として、令和元年から議長の立候補制度を導入し、これまでに4回の取組実績がある。

議長の選出は、①立候補の届出、②立候補者の所信表明会の開催、③議長選挙（投票）の順で行われる。立候補者が所信表明を行うことにより、議長として議会をどのように運営していくのかを内外に示す良い機会となっており、議会全体の責任感と意欲の向上につながっているとのことであった。

上記に関する主な質疑・答弁は以下のとおり。

（質疑）同一の会派から立候補者が出た実績はあるか。

（答弁）一度だけある。ただし、基本的には会派内で事前に調整され候補者が一本化されるものと考えている。

（質疑）期数の若い議員の立候補はあるか。

（答弁）現時点ではないが、須賀川市議会は24名中14名が新人議員であるため、今後の積極的な立候補を期待している。

（質疑）常任委員会の委員長はどのように選出するのか。

（答弁）あらかじめ会派の代表者会で調整している。

（質疑）議長の立候補制について市民の反応はどうか。

（答弁）直接的にアンケート等を行ってはいないが、ある議員の話によると好意的な意見を聞いているとのことである。

（質疑）委員会の議案審査に2日間かけていると聞くが、どのように運営しているか伺う。

（答弁）1日目は議案の審査ではなく、委員独自で議案について調査し、委員間の自

由討議を行うものであり、この調査時には執行部は説明に入らない。その後、2日目に執行部から正式に議案の説明を受け審査を行うこととしている。



視察状況



須賀川市民交流センター